

災害とコミュニティの創生

〜まじるの絆〜

入場
無料



2013年
10月23日水

午後 1:00～4:30

高知県民文化ホール (グリーン)

プログラム

- PM 1:00 開会あいさつ 高知県精神保健福祉協会会長代行 明神 和弘
来賓あいさつ 高知県知事 尾崎 正直
高知市長 岡崎 誠也
高知県医師会長 岡林 弘毅
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 休憩
- PM 1:35 アトラクション (高知ハーモニーホスピタル)
- PM 1:45 休憩
- PM 1:50 講演「災害とコミュニティの創生」～こころの絆～
講師 相馬広域こころのケアセンターなごみ保健師 伏見 香代
相馬広域こころのケアセンターなごみ看護師・社会福祉士 廣田 信幸
- PM 3:00 休憩
- PM 3:10 シンポジウム「私たちのコミュニティの創生」
シンポジスト
「私たちの『皆んなが主役の楽しいサロン』は、地域の見守隊!!」
サロン「大崎さんち」世話人 片田ひろ美
「コミュニティづくりとこどものチカラ」
プロセスデザイナー 畠中 洋行
「安全・安心・つながりの確保」
高知県臨床心理士会 会長 杉本 園子
助言者 相馬広域こころのケアセンター保健師 伏見 香代
相馬広域こころのケアセンター看護師・社会福祉士 廣田 信幸
座長 (医)精華園海辺の杜ホスピタル 副院長 岡田 和史
- PM 4:25 閉会あいさつ 高知県精神保健福祉協会副会長 猪谷 健

[主催] 高知県精神保健福祉協会

[事務局] 高知県精神保健福祉協会 高知市丸ノ内1-2-20 高知県地域福祉部障害保健福祉課内 TEL 088 (823) 9669

[後援]

高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知市長会・高知県町村会・(一社)高知県医師会・(社福)高知県社会福祉協議会・
(公社)高知県理学療法士協会・(一社)高知県作業療法士会・高知臨床心理協会・高知県臨床心理士会・高知県精神保健福祉士協会・
高知県精神障害者家族会連合会・(公社)高知県看護協会・(特社)日本精神科看護技術協会 高知県支部・高知県精神科病院協会・
高知県精神神経科診療所協会・(独)労働者健康福祉機構高知産業保健推進連絡事務所・特定非営利活動法人高知県自閉症協会・
高知県民生委員児童委員協議会連合会・特定非営利活動法人高知いのちの電話協会・高知県小中学校PTA連合会・高知県高等学校PTA連合会・
NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知

「災害とコミュニティの創生」～こころの絆～

大会実行委員長 石田 正之

「人のこころの絆ってなんだろう」と思った時、色々な考えがあるでしょうが、まず最初に「家族の絆」を思い浮かべます。一人暮らしの方にとってはご近所付き合いかもしれません。個人～家族～地区～県～地域～日本～地球とこころの絆が広がっていけば現代社会に頻発している事件や争い事はなくなっていかかもしれません。自分が誰かを必要としていること、そして誰かが自分を必要としていることを常日頃感じることができれば、災害時の避難の際や、その後の生活にも大きな心の拠り所になるでしょう。私達は守るべき誰かがいて、守ってもらえる人（コミュニティ）があって、そのこころの絆の中で初めて生きていけるのではないかと感じます。子供達やお年寄りを守り、さらにそこからパワーをもらうのもコミュニティの役割だと思います。

今回は東日本大震災で被害を受け、いまだ復興途上にある福島県浜通りの相双地区で、震災後立ち上げられた「相馬広域こころのケアセンターなごみのスタッフの中から地元出身の保健師、伏見香代氏、東京の職場を退職し「なごみ」の職員となった看護師、廣田信幸氏、おふた方にその活動を伝えていただくと同時に全国各地に避難されている方々も含めてコミュニティがどのように創生されていくのかを共有していきたいと思ひます。シンポジストには高知市上本宮町山手町内会で「住民がつながる集いの場」「サロン 大崎さんち」を立ち上げた世話人の一人、片田ひろ美氏、高知の出身でまちづくり・地域づくりにずっと取り組んでこられたプロセスデザイナー、畠中洋行氏、高知県臨床心理士会会長で海辺の杜ホスピタル心理室長の杉本園子氏に思いや活動を語っていただきます。高知家と福島家、互いに個性を尊重し合うコミュニティづくりの輪を、こころの絆を、ここから発信して日本中、世界中に届けられるようになったらと今からこころワクワクしています。

第53回高知県精神保健福祉大会開催にあたって

高知県精神保健福祉協会会長代行 明神 和弘

高知県精神保健福祉協会では、毎年10月に「高知県精神保健福祉大会」を開催しており今回で第53回となります。その時々精神保健・福祉に関する問題を取り上げ、県民の皆様と一緒に考える機会となればと考えております。

今回、取り上げたテーマは“こころの絆”です。私達の社会は人と人が支え合い、心と心のつながりがあるからこそ成り立っていると思ひますが、最近この心と心のつながりが希薄になってきているような気がいたします。社会問題にもなっている孤独死や自殺、また凄惨な事件などもこの現れかもしれません。

私達の社会が人間味にあふれ優しく温かく思いやりのある社会であるためには、この心のつながりを育て大切に守っていかなければならないのではないかと感じます。

まず講演では「『災害とコミュニティの創生』～こころの絆～」という演題で、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」のスタッフでいらっしゃる、伏見香代保健師・廣田信幸看護師にお話していただきます。お二人とも、東日本大震災で被害をうけた福島県浜通りの相双地区で壊れてしまったコミュニティを再び創り上げていくために頑張っているにいらっしゃいます。当日はその活動についてお話しいただけると思ひますが、私たちにも大いに共感するものがあるのではないのでしょうか。高知県もいずれ大震災がおこるであろうと言われておりますが、その震災に対する心構えとしての参考にもなるのではないかと考えております。

シンポジウムは「私たちのコミュニティの創生」をテーマに県内で活躍されている3名の方々に集まりいただきました。それぞれがそれぞれの立場から取り組んでいらっしゃる、「人と人との心のつながり」や「コミュニティの取り組み」についてお話しいただきます。

目に見えないものであり普通は“こころの絆”について考えることも少ないと思ひますが、この機会に、私達の社会やこころのつながりについて考えてみようではありませんか。

短い時間ではありますが充実した時間になることを願っております。

講演タイトル

「災害とコミュニティの創生」

～こころの絆～



講師

相馬広域こころのケアセンター
なごみ保健師

ふしみ かよ
伏見 香代

●略歴

平成 5年 福島県総合衛生学院保健学科卒業

平成 5年 福島県双葉郡浪江町役場保健師として入職

平成 23年 3月11日 東日本大震災を浪江町役場内に被災する

平成 24年 3月 浪江町役場退職

平成 24年 4月 相馬広域こころのケアセンターなごみ保健師として入職現在に至る。

震災後は、浪江町民と一緒に全町避難を経験しました。その後は、浪江町民の相談・訪問活動を行い、現在は、相馬市にある相馬広域こころのケアセンターなごみで、仮設住宅にお住いの方々や、近隣地域住民の相談・訪問活動を行っています。福島県中通りに一時避難をしましたが、現在は子供達と一緒に南相馬市で暮らしています。



講師

相馬広域こころのケアセンター
なごみ看護師・社会福祉士

ひろた のぶゆき
廣田 信幸

●略歴

平成 11年 日本社会事業大学 社会福祉学部卒業

平成 18年 独立行政法人国立病院機構災害医療センター附属昭和の森看護学校卒業

平成 18年 独立行政法人国立病院機構災害医療センター救命救急病棟看護師として入職後、国立病院筋ジストロフィ病棟、呼吸器内科病棟を経験

平成 23年 3月11日 準夜出勤直前、自宅で東日本大震災を経験

平成 23年 12月 相馬広域こころのケアセンターなごみ看護師として入職後、現在に至る。

震災後は繰り返し「計画停電」に見舞われる病院で、人工呼吸器管理下の患者対応に走りながら、電算化されたシステムの災害対策の脆弱さに直面。その後、勤務の休日ごとに、福島県南相馬市での被災者支援の医療ボランティア活動に携わり、その経験を活かして、相馬広域こころのケアセンター発足時からスタッフとして活動しています。

福島は、地震・津波・原子力発電所事故・風評被害の4重苦を受けています。今まで誰も経験していない状況の中、避難するかしないかの判断を、個人でしなければなりません。そして、全国や県内各地にバラバラに避難していったのです。

土地があって、人々の生活があり、人のつながりがあるコミュニティ。そんな、「ごく当たり前の地域の暮らし」が、一瞬にして壊れるなどとは思いませんでした。

福島の震災後のコミュニティの再構築への取り組みは、高知のみなさんの震災への備えや、日々の豊かな暮らしのヒントになるかもしれません。一緒に、地域の暮らしを考えましょう。

